

まちづくり交付金 モニタリングシート
鉾田地区

平成21年11月

茨城県鉾田市

様式3 評価結果のまとめ

都道府県名	茨城県	市町村名	鉾田市		地区名	鉾田地区		面積	950ha			
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施予定時期	H22	モニタリング実施時期	H21.7	交付対象事業費	1,280百万円	国費率	40%			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施済み、実施中、実施予定の事業	基幹事業	事業名 道路事業：市道4324号線、市道65号線、市道15号線、市道4314号線			事業進捗の状況(順調か、遅れているか) 用地買収難航箇所あり遅れている。						
		提案事業	地域創造支援事業：水道管敷設(市道4324号線)、環境学習イベント、健康増進施設、汚水処理施設整備			環境学習イベントを削除予定で、それ以外は予定通り。						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし。			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	地域創造支援事業：健康増進イベント(ウォーキング)、健康増進イベント(マラソン)		マラソンは関連事業へ移行、ウォーキングについては、期間内に実施できる見込みが無くなった為に削除。		影響はあるが、指標の変更を要するものではない。					
	新たに追加した事業	基幹事業	なし。									
交付期間の変更	当初	平成 年度～ 年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	平成 年度～ 年度										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	モニタリング	目標	総合所見	今後の対応方針				
			基準年度	目標年度	計測年度	達成見込み						
	指標1	安全、快適な道路機能	%	70	H17	5	H22	21	H21	あり なし	現在事業中であり、老朽化で段差ができ危険であった箇所が解消されつつある。	この指標は、市立青柳小学校周辺の地区の生活道路において歩行者等が安心して通行できることを目標としているもので、老朽化した路面を改修し、安全通行性を高めるため継続
	指標2	健康増進施設の利用者数	人/日	624	H17	624	H22	623	H21	あり なし	H10に施設がオープンし、毎年利用者数は増加傾向であったが、H16をピークに減少がある。施設の規模自体が日平均400人を想定したものであるため、定員オーバーで飽和状態ではあるものの、施設の交通アクセス性を高めて現状の利用者数を維持している。	健康増進施設の利用者数とは温泉施設の利用者を言うが、市道を整備し、大型の車両通行利便性を高めて利用者増を見込んだが、最近若干の減少傾向が見られるため、ウォーキングコースの利用者を指標として追加し、施設全体での利用者数の増加を見込む。
	指標3	狭あい道路率	%	70	H17	10	H22	41	H21	あり なし	現在事業中であり、待避しなければならなかった道路がスムーズに通行できるようになりつつある。	路線拡幅により狭あい道路を解消し、廃棄物回収車同士やその他の車のすれ違いや、歩行者等の安全の確保するもので、継続して実施する。
指標4	廃棄物のリサイクルの向上	t	773	H17	1,100	H22	921	H21	あり なし	環境学習イベントの開催は見送る予定だが、市民のゴミ減量化等環境エコへの意識はすこしづつ高まっており、リサイクル回収量において増加傾向を示しているが目標達成できない。また、従前値及び目標値の設定がリサイクル品目のビン・カンのみであり、ペット等が含まれていないのに加え、関連する事業が無い。	関連する環境学習イベント事業見送られたため、効果を発揮する指標として「整備路線における廃棄物回収車の待避回数」に変更する。	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	モニタリング	目標	総合所見	今後の対応方針				
			基準年度	目標年度	計測年度	達成見込み						
その他の数値指標1	ウォーキングコース利用者数	人/日		15	H22	10	H21		市民の健康づくりを支援するための施設としてウォーキングコースを整備することによって、健康増進機能の充実を図り、施設全体の利用者の増加に貢献できるものと思われる。	他事業で同公園内に廃線になった鹿島鉄道の車両を展示する予定で、イベント等を含め来訪者の増加も見込まれる。		
その他の数値指標2												
4) 定性的な効果発現状況												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等					
	モニタリング	都市再生整備計画に記載し、実施できた			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
	住民参加プロセス	都市再生整備計画に記載し、実施できた			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
持続的なまちづくり体制の構築	都市再生整備計画に記載し、実施できた			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
6) モニタリングの所見	総合所見	順調 要改善	事業の見送りなどの計画の変更、及び指標の見直し等が必要。			今後の事業の改善点	実施事業及び指標の変更・追加を行なう。					

(1) 成果の評価

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標					
B. 目標を定量化する指標					
C. 目標値					
D. その他()					

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業											
事業	事業箇所名	当初計画		モニタリング時		当初計画からの 変更の概要 ¹ (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、 数値目標等への影響	モニタリング時の状況			今後の事業見込み
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			未着手	事業中	完成	
道路	市道4324号線	40	L = 3,300m	42	L = 2,320m	事業費の精査により増額。	影響なし。				継続して実施。
道路	市道65号線	-	-	18	L = 410m	4324号線との一体的な整備により 段差の少ない安全性を高めるため 追加。	影響はあるが、指標の変更を要するもの ではない。				継続して実施。
道路	市道15号線	424	L = 600m	558	L = 600m	事業費の精査により増額。	影響なし。				継続して実施。
道路	市道4314号線	471	L = 2,200m	482	L = 2,200m	事業費の精査により増額。	影響なし。				継続して実施。
駐車場有効利用システム											
地域生活基盤施設											
高質空間形成施設											
高次都市施設											
既存建造物活用事業											
公営住宅等整備											
土地区画整理事業(都市再生)											
住宅市街地総合整備事業											

¹: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		モニタリング時		当初計画からの 変更の概要 ¹ (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、 数値目標等への影響	モニタリング時の状況			今後の事業見込み
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			未着手	事業中	完成	
地区再開発事業											
バリアフリー環境整備事業											
優良建築物等整備事業											
住宅市街地総合整備事業											
街なみ環境整備事業											
住宅地区改良事業等											
都心共同住宅供給事業											
公営住宅等整備											
都市再生住宅等整備											
防災街区整備事業											

¹: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法とモニタリング値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考) ¹ 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		目標値(ウ)		モニタリング(エ)		現段階での目標達成見込み		総合所見	今後の方針
			基準年度		基準年度		目標年度		実施年度		あり	なし		
指標1	安全、快適な道路機能	%			70	H17	5	H22	21	H21			現在事業中であり、老朽化で段差ができ危険であった箇所が解消されつつある。	この指標は、市立青柳小学校周辺の地区の生活道路において歩行者等が安心して通行できることを目標としているもので、老朽化した路面を改修し、安全通行性を高めるため継続して実施する。
指標2	健康増進施設の利用者数	人/日			624	H17	624	H22	623	H21			H10に施設がオープンし、毎年利用者数は増加傾向であったが、H16をピークに減少がある。施設の規模自体が日平均400人を想定したもので、定員オーバーで飽和状態ではあるものの、施設の交通アクセス性を高めて現状の利用者数を維持していく。	健康増進施設の利用者数とは温泉施設の利用者を言うが、市道を整備し、大型の車両通行利便性を高めて利用者増を見込んだが、最近若干の減少傾向が見られるため、ウォーキングコースの利用者を指標として追加し、施設全体での利用者数の増加を見込む。
指標3	狭あい道路率	%			70	H17	10	H22	41	H21			現在事業中であり、待避しなければならなかった道路がスムーズに通行できるようになりつつある。	路線拡幅により狭あい道路を解消し、廃棄物回収車同士やその他の車のすれ違いや、歩行者等の安全の確保するもので、継続して実施する。
指標4	廃棄物のリサイクルの向上	t			773	H17	1,100	H22	921	H21			環境学習イベントの開催は見送る予定だが、市民のゴミ減量化等環境エコへの意識はすこしづつ高まっており、リサイクル回収量において増加傾向を示しているが目標達成できない。また、従前値及び目標値の設定がリサイクル品目のビン・カンのみであり、ペット等が含まれていないのに加え、関連する事業が無い。	関連する環境学習イベント事業見送られたため、効果を発揮する指標として「整備路線における廃棄物回収車の待避回数」に変更する。

¹ 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法とモニタリング値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考) ¹ 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		目標値(ウ)		モニタリング(エ)		本指標を取り上げる理由	総合所見	今後の方針
			基準年度		基準年度		目標年度		実施年度				
その他の数値指標1	ウォーキングコース利用者数	人/日					15	H22	10	H21	指標2を補完するため。	市民の健康づくりを支援するための施設としてウォーキングコースを整備することによって、健康増進機能の充実を図り、施設全体の利用者の増加に貢献できるものと思われる。	他事業で同公園内に廃線になった鹿島鉄道の車輛を展示する予定で、イベント等を含め来訪者の増加も見込まれる。

¹ 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

--

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係課組織	企画課、都市建設課、健康増進課、水道課	必要に応じて各担当課へ意見照会、データ収集を実施。	企画課

添付様式4 - 効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3	指標4
指標名		安全、快適な道路機能	健康増進施設の利用者数	狭あい道路率	廃棄物のリサイクルの向上
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	市道4324号線	-	現在事業中であり、老朽化で段差ができ危険であった箇所が解消されつつある。	-	H10に施設がオープンし、毎年利用者数は増加傾向であったが、H16をピークに減少がある。施設の規模自体が日平均400人を想定したもので、定員オーバーで飽和状態ではあるものの、施設の交通アクセス性を高めて現状の利用者数を維持していく。
	市道65号線	-		-	
	市道15号線	-		-	
	市道4314号線	-		-	
提案事業	地域創造支援事業:水道管布設(市道4324号線)	-		-	
	地域創造支援事業:環境学習イベント	-		-	
	地域創造支援事業:健康増進施設整備(ウォーキングコース)	-		-	
	地域創造支援事業:汚水処理施設整備(スカイタウン)	-		-	

指標改善への貢献度
 ○: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献している。
 △: 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献している。
 ×: 完成直後又は事業開始直後のため、効果の発揮に至っていない。
 ×: 事業が完成したが、期待通りの効果を発揮していない。
 -: 評価できない。
 (未着手又は事業中のため評価できない、事業と指標とに関係がないので評価できない)

今後の方針等	この指標は、市立青柳小学校周辺の地区の生活道路において歩行者等が安心して通行できることを目標としているもので、老朽化した路面を改修し、安全通行性を高めるため継続して実施する。	健康増進施設の利用者数は温泉施設の利用者を言うが、市道を整備し、大型の車両通行利便性を高めて利用者増を見込んだが、最近若干の減少傾向が見られるため、ウォーキングコースの利用者を指標として追加し、施設全体での利用者数の増加を見込む。	路線拡幅により狭あい道路を解消し、廃棄物回収車同士やその他の車のすれ違いや、歩行者等の安全の確保するもので、継続して実施する。	関連する環境学習イベント事業見送られたため、効果を発揮する指標として「整備路線における廃棄物回収車の待避回数」に変更する
--------	---	---	---	--

指標の種別		その他の指標1								
指標名		ウォーキングコース利用者数								
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	
基幹事業	市道4324号線	—	この指標は指標2を補完するもので、市民の健康づくりを支援するための施設としてウォーキングコースを整備することによって、健康増進機能の充実を図り、施設全体の利用者の増加に貢献できるものと思われる。							
	市道65号線	—								
	市道15号線	—								
	市道4314号線	—								
提案事業	地域創造支援事業：水道管布設(市道4324号線)	—								
	地域創造支援事業：環境学習イベント	—								
	地域創造支援事業：健康増進施設整備(ウォーキングコース)	—								
	地域創造支援事業：汚水処理施設整備(スカイタウン)	—								

指標改善への貢献度

- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献している。
 - △：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献している。
 - ：完成直後又は事業開始直後のため、効果の発揮に至っていない。
 - ×：事業が完成したが、期待通りの効果を発揮していない。
 - ：評価できない。
- （未着手又は事業中のため評価できない、事業と指標とに関係がないので評価できない）

今後の方針等	施設内の公園に、廃線になった鹿島鉄道車両を展示予定で、展示後は定期的なイベント等も開催される見通しなので、来訪者が増えると思われる。			
--------	--	--	--	--

(4) モニタリングの所見

添付様式5 - まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	モニタリングの時点で達成されたこと (課題の改善状況)	交付期間中に解決すべき 残された課題	交付期間中に発生した 新たな課題
地域の通学路にもなっている路線の 段差解消による安全性の確保	路面の改修も順調に進んでいるので改善されて きている。	継続して整備していく。	
青柳小学校周辺地域住民の水道な どのインフラ整備	道路の路面改修と合わせた水道管敷設により 整備がすすめられている。	継続して整備していく。	
ほっとパーク銚田へのアクセス道の 整備や施設敷地内のウォーキングコース 整備	ウォーキングコースはH20において整備し、現在アク セス道の橋梁の架け替え中である。	早期に橋梁を完成させ、アクセス性を高めて集客増を 目指し、ウォーキングコースへの案内板等利用者を誘導する 必要がある。	
クリーンセンター周辺の狭あい道路 の解消による地域住民の安全確保	メインのアクセス道についてはH19に整備済み で、もう一方の民家の多い区間を整備中。	廃棄物回収車が行き交う路線において、地域の住民が 安心して通行できる道路を整備する。	
環境にやさしいまちづくりを推進する ため、地域住民が環境について学ぶ ための場の提供	環境学習事業の見送り。	—	

添付様式5 - 総合所見・今後の事業の改善点

総合所見		今後の事業の改善点	
		具体的項目	内容
順調	事業の進め方の工夫	連絡体制の強化	事業間の連絡調整を行い、期間内での事業効果発現を目指す。
計画・事業の進め方の 改善が必要			
事業の見送りなどの計画の変更、及 び指標の見直し等が必要。	都市再生整備計画 の見直しの必要性	社会情勢の変化	環境学習事業の取りやめ。
		数値目標の適正化	目標の達成度や、事業との関連性などによる指標の適正を図るため、指標の変更及 び追加を行なう。

(6) 有識者からの意見聴取

添付様式7 有識者からの意見聴取

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
筑波大学大学院 蓮見 孝 教授	11月	銚田市総務部企画課

有識者の意見	<p>銚田地区における各整備事業は、着実に効果があらわれていることが確認できた。青柳小学校周辺道路(市道4324号線)においては路面段差等がかなり解消され、地区住民および通行車両の安全性が確保されつつある。クリーンセンター進入路(市道4314号線)においても拡幅整備がなされ、廃棄物回収車両等の安全な通行に大きく貢献している。</p> <p>健康増進施設の利用者数については、平成16年度のピーク時点をもとに従前値を設定しているが、利用者数はその後若干減少しながら安定的に推移しており、また施設の規模が日平均あたり400人程度を想定したものであることを考えれば、現状でも十分に盛況であると判断できる。そこで従前値を事業開始直近である平成17年度の値とし、それを維持していくことを目標とするとともに、施設敷地内に整備されたウォーキングコースの利用者数を指標として加えることは適当であると思われる。</p> <p>廃棄物のリサイクル向上については、指標設定時において市民のリサイクル意識を高めることでリサイクル量が増えることを想定していたが、リサイクル率は微増しているものの、ゴミ減量化に対する市民の意識が根付いてきたことにより絶対値である消費量が押さえられているため、目標を達成することは難しくなっている。さらに関連事業である環境学習が見送られたこともあり、代替指標として、廃棄物回収車のクリーンセンター進入路通行時における待避回数とすることは理解できる。</p>
--------	---